

# シニアのためのパソコン&スマホ広場(その 157)

## 「Windows 11」搭載のパソコン購入後の作業と注意事項

昨年(2025年10月14日)に、「Windows10」のサポートが終了して3ヶ月経ちました。

既に、「Windows11」搭載パソコンに乗り換え済みの方と、これから「Windows11」搭載の“新規パソコン”、または“中古パソコン”の購入を検討される方が居ると思います。

今回は、「Windows11」搭載のパソコンを購入した後に行う作業と、**注意事項**について説明しますので、既に「Windows11」搭載パソコンに乗り換え済みの方も、“**注意事項**”について再確認してください。

### 1. “新規”パソコン購入後に行う作業 & “注意事項”

#### (1) パソコンの基本(初期)設定を行う

“新規”パソコンを購入後、パソコンを使用可能にするため、以下の設定作業が必要です。



- ① 「Wi-Fi」設定 …… パソコンをインターネットに無線で接続する。
- ② 「デバイス名」設定 …… パソコンに名前を付ける。
- ③ 「マイクロソフトアカウント」登録 …… Windows11にログインするための「アカウント(識別情報)」で、「Microsoft Office」の”ライセンス認証”を行うために必須です。
- ④ 「Microsoft Office」のライセンス認証 …… “Word”や“Excel”等の「ライセンス認証」を行う。
- ⑤ 「Windows Update」の実行 …… Windows11を最新状態にする。
- ⑥ 「プリンタ」の設定 …… プリンタ(有線/無線)を使用する設定を行う。
- ⑦ 「メールアカウント」設定 …… 「プロバイダーメール」を使用する設定を行う。
- ⑧ 「データ」移動 …… Windows10/パソコンに保存のデータを新パソコンに移動する。
- ⑨ 「システムの復元」機能の有効化 …… 「復元ポイント」の作成設定を行う。
- ⑩ 「ウイルス対策ソフト」のインストール …… 購入済「ウイルス対策ソフト」をインストールする。
- ⑪ 他の「アプリ」をインストール …… Windows10/パソコンで使用のアプリをインストールする。
- ⑫ 「システム環境のバックアップ」 …… 「システムイメージバックアップ」を作成する。…(任意)

#### (2) “OneDrive”との同期を解除する … **注意事項**

“OneDrive”とは、マイクロソフト社が提供する“クラウドストレージサービス(ネット上の貸書庫)”で、マイクロソフト社は、パソコンに「マイクロソフトアカウント」を登録すると、“OneDrive”と自動的に“同期”をとるように設定しています。

“同期”とは、パソコンとマイクロソフト社のサーバに「マイクロソフトアカウント」毎に割り当てられた“OneDrive”という領域を、インターネットを介してリアルタイムに連携することをいいます。

そのため、パソコンを初期設定の状態で使用すると、パソコンと”OneDrive”が同期されて”OneDrive”を使用することになります。

“OneDrive”を無料で使用できる領域は5GBで、“OneDrive”を同期した状態で使用していて“OneDrive”の空き容量が少なくなると、有料の領域拡張契約を促すメッセージを頻繁に表示してきます。

画面に表示してくるメッセージを無視して使い続けると、保存したはずのデータが保存されていなか



ったり、使用途中で“同期”を解除しようとする場合、“Onedrive”内のデータをパソコン(デバイス)側へ移動させるなど、複雑な作業が必要になります。

そのため、自分のパソコンが“Onedrive”と同期をとる必要がないと判断した場合、できるだけ早いうちに「パソコン&スマホ広場(その110)」の手順を参考に、同期を「無効」に設定してください。

### (3) BitLockerを「無効」に設定する …注意事項

「パソコン&スマホ広場(その144と155)」にも紹介しましたが、パソコンを新規購入した場合、パソコンメーカーによって“Bitlocker”機能が「有効」に設定されている機種があります。

そのような設定のパソコンで“Bitlocker”が「有効」になっていることを無意識に使っていると、「パソコン&スマホ広場(その156)」で紹介事例のように、盗難や紛失以外でも、突然「回復」キーの入力を求める画面が表示されてパソコンが使用できなくなることがあります。



Bitlocker

そのようなトラブルを避けるために、個人使用でパソコンが盗難や紛失するリスクが低く、“Bitlocker”を「有効」にする必要がないと判断した場合、「パソコン&スマホ広場(その155)、(その144)」の手順により設定状況を確認し、「有効」になっていれば「無効」に設定変更してください。

## 2. “中古パソコン”購入後に行う作業 & 注意事項

“中古パソコンショップ”などで販売している大半のパソコンは、企業や官公庁などがリース契約で使用していたパソコンをリース契約終了後にリース会社が引き上げ、パソコンのストレージ(HDDやSSD)を交換し、Windows11 Professional をクリーンインストールした機種が多く販売されています。

### (1) 中古パソコンの初期(基本)設定を行う

中古パソコンの殆どは「ローカルアカウント」が設定されています。

また、デバイス名は”User”などと設定されていて電源を入れるとWindows11が起動する状態になっています。

そのため、1台のパソコンだけで使用するのであれば、「マイクロソフトアカウント」の設定は不要で、以下の設定を行うことで使用可能になります。

#### ◆パソコン購入時の着目点◆

- ① CPU世代…インテル社の場合  
開発世代が第8世代以降
- ② CPU…インテル社の場合  
「i5 または i7」を搭載機種
- ③ メインメモリ…16GB 以上  
を搭載機種
- ④ ストレージ容量…記憶容量  
が500GB 以上の「SSD」

- ①「Wi/Fi」設定 …… パソコンをインターネットに無線で接続する。
- ②「デバイス名」変更 …… パソコンの名前を自分用に変更し、パスワードなどを設定する。
- ③「Windows Update」の実行 …… Windows11を最新状態にする。
- ④「プリンタ」の設定 …… プリンタを有線または無線で使用する設定を行う。
- ⑤「メールアカウント」設定 …… 「プロバイダーメール」を使用するための設定を行う。
- ⑥「データ」移動 …… Windows10/パソコンに保存のたデータを新パソコンに移動する。
- ⑦「システムの復元」機能の有効化 …… 「復元ポイント」の作成を設定する。
- ⑧「ウイルス対策ソフト」のインストール …… 購入済「ウイルス対策ソフト」をインストールする。
- ⑨ 他の「アプリ」をインストール …… Windows10 パソコンで使用の他のアプリをインストールする。

⑩「システム環境のバックアップ」……「システムイメージバックアップ」を作成する。(任意)

(2) “Onedrive”との同期を外す … **注意事項**

「ローカルアカウント」では”Onedrive”が使用できないので「設定変更」は不要です。但し、「ローカルアカウントを「マイクロソフトアカウント」に変更すると、自動的に「同期」が設定されているために、「同期」を外す作業が必要です。



(3) BitLockerを「無効」にする … **注意事項**

通常、「ローカルアカウント」を使用している場合、BitLockerによるデバイスの暗号化は自動的に「有効」になりませんが、パソコンメーカーや設定によって「ローカルアカウント」でもBitLocker機能が「有効」になっていることがあるので、購入した中古パソコンのBitLockerが「有効」になっていないか確認し、「有効」になっていれば、「パソコン&スマホ広場(その144)」の手順に沿って同期を「無効」に設定変更してください。



(4) 「システムイメージバックアップ」の必要性 … **注意事項**

中古パソコンで、“Microsoft Office21XX認証済”と表記された機種を購入した場合、既に“Microsoft Office”のライセンス認証が行われているので、自分がライセンス認証を行う必要はありませんが、パソコン購入後Windows11が不調になり、やむを得ず、Windows11の初期インストール(クリーンインストール)が必要になった場合、C:ドライブにインストールされていた“Microsoft Office21XX”が削除されてしまいます。



そのため、“Microsoft Office21XX”の再インストールとライセンス認証が必要になりますが、殆どの中古パソコンには“Microsoft Office21XX”の「プロダクトキー」が添付されていないため、再インストールをしても「ライセンス認証」が行えません。

このような万が一のトラブルに備え、システムの”イメージバックアップ”をとっておけば、“イメージバックアップ”からWindows11を含むシステム全体を復元することで、ライセンス認証済みの“Microsoft Office21XX”が復元できる可能性があります。

※ パソコンを“イメージバックアップ”から復元した場合、当然ですがバックアップを取った日時  
の状態です。

<補足>

システムの“イメージバックアップ”は、万が一のトラブルに備えて被害を最小限に留めるための作業なので任意ですが、パソコンのトラブルは予期せず突然起きることがあるので、“トラブル保険”のつもりで実施することをお勧めします。

システムの“イメージバックアップ方法”は、「パソコン&スマホ広場(その118)」を参照ください。

なお、“イメージバックアップ”と別に、“重要なデータのバックアップ”をパソコン外の記憶メディアに短い周期で行うことが、パソコンを安心して長く使い続ける基本です。



以上

田辺・西牟婁地区協議会  
森田 那華雄